

なぜ法学 A の単位が取れないのか

2年 J 科 須永知樹

電気通信大学の講義に法学 A がある。一年次の前期(1学期)に抽選に落ち法学 A を受講する羽目になった。しかし、そのときの成績は不可であった。また二年次の前期(3学期)も再履修をしたが結果はまたもや不可であった。なぜこのような事態に陥ったのかを簡潔に分析してみる。

・法学 A

法学の評価の方式は主に学期末に行う論述形式の試験である。そのほかに出席点を数点加味するらしい。出席の確認は不規則的に 6,7 回行われた気がする。

試験では自筆のノート(コピーやプリント以外)の持込および閲覧が認められる。問題内容は全 2 問で法に関する事柄を論ずるものであった。

・第 1 学期

1 学期は全ての講義に出席した。あの 7 月の蒸し暑い熱気が立ち込める B 棟 201 教室の中ひたすらノートを取り、試験を迎えた。一問につき解答用紙の一面を使うわけだが、書くことが思い浮かばず試験時間内で用紙の 40%しか埋まらなかった。ノートの内容よりも自分の考えを記述しようと試みたのが仇となったようだ。提出時に他の答案用紙をみたら、少なくとも 60%は越えてることに気づいた。

・第 3 学期

3 学期は約 15 回の講義の内 2 回出たが出欠はとらなかった。法学が合格だった友人などに回答のコツを聞いて、前回の屈辱を晴らすべく試験に臨んだ。ノートは 1 学期に単位をとった知人のノートをみながら試験した。知人曰く、ノートの内容を丸写しする感じで、ということだがどうやっても解答用紙の半分も埋まらない。

考えてみればノート持込可能なのにノートを写すだけなはずがない。しかし、的外れなことを書いて前回の様になるのも如何に。などと思っているうちに試験が終わった。

不可となった要因は出席率か、試験か。おそらく両方であろう。

・自分が感じたこと

論述問題が苦手な自分にとっては法学は楽じゃない。出席確認をするタイミングがわからない、而して講義内容を理解しないと論ずることができないので、全ての講義に出なければならぬ。

試験はノートの内容に加えて、自分の考えを膨らませて書かないと落ちる。逆にいえばその能力がある人は楽かもしれない。あと字は丁寧に。

ということで、なぜ単位が取れないかという上記の条件を同時に満たしていなかったからである。

P.S: 席は上のほうは熱気がすごいので窓際の中腹がベスト。